

2016年12月11日(日)

説教:「ヨセフの決断」

聖書:マタイによる福音書1章18~21節

ここはヨセフへのキリストの「受胎告知」になる。ヨセフは、婚約者のマリアが身重の体であると知ると「ひそかに縁を切ろうと決心した」とある。それは、ヨセフが「正しい人」であったからであるが、ユダヤ人として律法を重んじるがゆえに、この婚約は無かった事にしようと決心する。それはヨセフの最大限の配慮があった。もし、婚約者がいて夫の子でないものを宿しているとなれば、当時の律法では姦淫罪として極刑にあたる石打刑に処せられてしまう。ヨセフは、それは余りにも忍びないとして、「ひそかに縁を切ろうと」したわけだ。

しかし、天使がヨセフの夢に現れ、《恐れず妻マリアを迎え入れなさい》と言う。この事は、「正しい人」ヨセフにとって非常に難題として捉えた。この事は律法に反するからである。ただこのことは、ともすると神に対して、「いや！これは律法を犯すことになりますから受け入れられません」なんて言っちゃうかもしれない状況だ。もしそうなら、律法が正しく、神がおっしゃることが間違いであるとなり、これはもう本末転倒になる。ただこの世は、大抵が人間の業が正しく、神の業、神の言葉がないがしろにされているということが多い。まさに本末転倒な状況がこの世にはある。

ヨセフは、天使が夢に現れ語った通りに、マリアを妻として迎え入れる「決断」をする。この決断は、これまでの律法を打ち破ること、律法を越えて行くことのように見える。その決断が、この世にイエス・キリストの誕生へと向かうのである。

マタイ福音書 5 章 17 節に新しい言葉をもって示している箇所がある。《わたしが来たのは律法や預言者を廃止するためだ、と思ってはならない。廃止するためではなく、完成するためである。》それは、神の言葉に勇気をもって決断し、誰の子とも知れない子を宿したマリアと、共に歩む決断により、イエスがこの世に生まれてくる。そのイエスが、さらにこの世の悪しき律法を打ち破って行く解体者にして、真の律法の完成者として、イエスは私たちに示して行くのである。

このヨセフの決断は、今なお私たちに求められているのではないか。(神谷)